

サッカーマガジンにみる W 杯日本代表に関する報道の変化について

久末 純可 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 地的 修

キーワード：サッカーマガジン、報道、W 杯、日本代表

1. 緒言

2010 年、南アフリカで行われた FIFA ワールドカップ (以下、W 杯) に 4 大会連続で出場した日本代表はベスト 16 という成績を残した。サッカー専門雑誌や新聞は、日本代表の開幕前の不振から岡田監督に対する不満や、支持率の低さを大々的に取り上げ、戦術や選手起用に対する批判など、様々な意見が飛び交い、紙面はどちらかと言えば消極的な内容が大半だった。しかし、W 杯第 1 戦カメルーンに勝利してからは、報道姿勢は 180 度転換した。日本代表の人気の大きさと関係している雑誌は、試合結果に加えて、その試合に対する関心の高さが販売部数や雑誌の紙面作りに大きく影響していると考えられ、2010 年の南ア W 杯の戦いぶりが、雑誌報道にどのような変化をもたらしたのかを検証した。

2. 研究方法

- ・紙面調査

開幕直前から大会期間中に発行された週刊サッカーマガジンの紙面立て、特色を調べる。

- ・インタビュー調査

2010 年南アフリカ W 杯の報道について、同誌の北條聡編集長にインタビューを行った。

3. 結果と考察

2010 年南アフリカ W 杯、サッカーマガジンの編集方針としては、開幕前は問題点の指摘、開幕後は日本代表を支援しながら冷静に試合

を分析するなどの紙面で構成するというのが当初からの予定であった。しかし、開幕前は記事の内容が消極的だったため、カメルーン戦に勝利したことで日本代表の快進撃を大々的に取り上げると、極端な報道の変化が起きた。一過性のファンが多い W 杯期間中は、雑誌の販売部数は日本代表の試合内容や結果に大きく左右されることが明らかになり、予選リーグの日本の勝利で、W 杯が閉幕するまで販売部数は大幅に伸びた。

表 1 代表試合結果と販売部数

発売日	内容	販売部数
5月26日	壮行試合 (●0-2韓国)	50000
6月1日	テストマッチ (●1-2イングランド)	65000
6月8日	テストマッチ (●0-2コートジボワール)	50000
6月16日	W杯初戦 (○1-0カメルーン)	60000
6月22日	W杯2戦 (●0-1オランダ)	50000
6月28日	W杯3戦 (○3-1デンマーク)	65000
7月6日	W杯決勝T (●0-0パラグアイ、PK3-5)	70000
7月14日	W杯決勝 (スペイン優勝)	60000
7月21日	Jリーグ (通常号)	45000

4. まとめ

W 杯など国民の関心が高い大会では、サッカー雑誌は日本代表の人気の大きさと販売部数が比例するという前提で、編集される。今後、日本代表の試合結果に左右されず、安定した販売部数を獲得するためには、読者のニーズに応えることはもちろん、日本人の国民性、サッカー環境などその他の要因を考慮した紙面製作も必要になるのではないだろうか。

参考文献

週間サッカーマガジン No.1281 No.1292
～No.1301 No.1306 別冊初秋号 全 13 冊